

2022年5月20日
第136号
(Web版第30号)

日本犯罪社会学会ニュース

発行

日本犯罪社会学会
JAPANESE ASSOCIATION OF
SOCIOLOGICAL CRIMINOLOGY

- I 大会実行委員長挨拶
- II 第49回(2022年度)大会 自由報告募集
- III 第49回(2022年度)大会について
- IV 第49回(2022年度)大会の託児サービスについて
- V 2022年度院生会員会費の取り扱いについて
- VI 第2回講座「犯罪学」開催報告
- VII 各部・委員会報告

※第107号からニュースレターはWebのみで発行しております。

※会員動向につきましては、年間1回、会員のみに詳細版を郵送いたします。

I 大会実行委員長挨拶

第 49 回大会の開催にあたって

津島昌弘（龍谷大学）

このたび、日本犯罪社会学会第 49 回大会（2022 年 10 月 15 日、16 日）を龍谷大学深草学舎において開催させていただくことになりました。

昨年のニューズレター「第 48 回大会の開催にあたって」でも同様の挨拶をさせていただきました。しかしその後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大および防止のため、第 47 回大会に続き 2 年連続で完全オンライン開催に切り替えざるを得なくなりました。

現状（執筆時の 4 月下旬）では、感染状況が大きく悪化しない限り、大会は対面による現地開催を予定しています。今後状況が大きく悪化することも予想されますので、その場合は、6 月の臨時常任理事会で最終的な開催形式を決定します。

浜井浩一会長も含め、開催校のメンバー一同は「三度目の正直」という気持ちで、大会に臨んでいます。現地開催になったとしても、すでに先の常任理事会において、開催校主催の通常の懇親会は中止することが決定しています。しかし、参加していただく会員の皆さまには、適切な感染症対策を講じ、かつ状況が許す範囲内で、交流の場を提供させていただこうと考えています。

現地開催は 3 年ぶりとなります。今大会こそは京都で皆さまとお会いできることを楽しみにしています。ご参加を心よりお待ち申し上げます。

II 第 49 回（2022 年度）大会 自由報告募集

研究委員会では、会員の皆様の自由報告を募集します。

●申込方法：Google フォームにて、以下の項目をお知らせください。

メールアドレス
申込者氏名（所属）
共同研究者氏名（所属）
上記それぞれについて当日報告をするか否か
報告タイトル
プロジェクトの要否
大会プログラムに掲載する報告概要原稿（150 字以上 200 字以内）
※大学に所属のある場合、教員等は「〇〇大学」、大学院生は「〇〇大学大学院」と記載してください。

申込先 URL

<https://forms.gle/47bj8QNP4TuXomz6>



※学会事務局など、上記以外へのお申込みは、ご遠慮ください。

●申込期限：2022年6月1日（水）必着

●問い合わせ先：日本犯罪社会学会研究委員会（担当委員：大塚 英理子）

電子メールアドレス：hansha2022kenkyu@gmail.com

●連絡事項：

*現時点で大会はインパーソンでの開催を予定しています。ただし新型コロナウイルス感染症の状況によっては、一部または全部をオンラインに切り替える可能性があります。キャンセルはできませんので、オンラインに切り替わる可能性があることを理解したうえで、お申込みください。

*自由報告は1名でもグループでも申し込めます。

*申込者と報告者は会員に限ります。共同研究者は非会員でも構いませんが、当日の報告はできません。

*1件の申込みにつき1つの報告となります。

*会員1名につき、申込み及び報告は1件までとなります。ただし、他の報告者の共同研究者となることは妨げません。

*報告時間は1件30分以内（報告時間：20分程度、質疑応答：10分程度）となります。共同研究者がいる場合でも、報告時間は変わりませんのでご注意ください。

*申込みの時点で大会プログラムに掲載する報告概要の原稿（150字以上200字以内）をご提出ください。提出された報告概要原稿は、原則として修正できません。

*大会プログラムに掲載された報告概要の著作権は、日本犯罪社会学会に帰属します。

*プロジェクトの使用を希望される場合は、その旨を申込みの際にお知らせください。なお、大会当日に報告者ご自身でご持参いただく機材（PC、USBメモリ等）については、使用会場の設備が決定次第、研究委員会からご連絡します。

*申込が受理されると自動的にメールが届きます。メールが届かない場合は、メールアドレスが誤っている可能性がありますので、再度お申込みください。それでも届かない場合は、Eメールでお問合せください。メールは第49回大会窓口[\[hansha2022kenkyu@gmail.com\]](mailto:hansha2022kenkyu@gmail.com)と学会事務局[\[hansha@daishodai.ac.jp\]](mailto:hansha@daishodai.ac.jp)の両方に送信してください。

*自由報告実施の日時や会場の指定はできません。ご了承ください。

●自由報告でお守りいただきたいこと：

*自由報告会場には、セッション開始の20分前までに必ずお入りください。遅刻・欠席等の場合は、必ず上記メールアドレス宛にご連絡ください。

*セッションの時間中に自由報告会場から離れることは、原則としてできません。無断で離れた場合には「報告が成立した」と認めない場合があります。

*自由報告時にプロジェクトをご使用になられる場合、必ずセッション開始時刻前に、動作確認をお願いします。

*自由報告者の方には、大会前日（10月14日）までに、メールで大会要旨集原稿をご提出いただきます。詳細は後日、研究委員会よりメールにてご案内いたしますので、メールを必ずご確認願います。

Ⅲ 第49回（2022年度）大会について

第49回大会は2022年10月15日（土）、16日（日）に龍谷大学（京都府京都市伏見区）で開催されます。現在、予定している事項につきまして、以下の通りご報告いたします。

1 タイムテーブル

10月15日(土)

9:30～ 受付開始
10:30～12:30 自由報告
12:30～14:00 昼食
14:00～17:00 テーマセッション
17:15～18:00 総会

10月16日(日)

9:00～ 受付開始
9:30～12:30 テーマセッション
12:30～14:00 昼食
14:00～17:30 シンポジウム
17:30～17:40 閉会式

2 企画内容について

現在のところ予定しているシンポジウム、テーマセッションのテーマ・申込者等は次の通りです。

(1) シンポジウム

テーマ：エイジェンシー——離脱研究における見逃された論点——

司会：上田 光明（日本大学）

報告者（五十音順）：秋本 光陽（岩手県立大学）

木島 泰三（法政大学）

中村 悠人（関西学院大学）

渡辺 匠（北海道教育大学）

指定討論者：津富 宏（静岡県立大学）

(2) 公募企画テーマセッション

15日(土) 午後

テーマセッション A

*テーマ：犯罪と被害者保護——刑事法の具体的規定および解釈からみる犯罪社会学の発展

申込者：安藤 泰子（青山学院大学）

テーマセッション B

*テーマ：批判的犯罪学の視角——犯罪社会学と刑事司法制度のあり方を問う

申込者：山口 毅（帝京大学）

16日(日) 午前

テーマセッション C

*テーマ：犯罪被害予防対策を促進するための課題とその解決に向けて

申込者：齊藤 知範（科学警察研究所）

テーマセッション D

*テーマ：反復性違法行為者対策としての「強制的アプローチ(≒懲罰的アプローチ)」と「受容的アプローチ(≒公衆衛生アプローチ)」

申込者：飯野 海彦（北海学園大学）

テーマセッション E

*テーマ：改正少年法の課題と展望

申込者：武内 謙治（九州大学）

第 36 回大会より、それまでのミニシンポジウムとラウンドテーブル・ディスカッションの区分を廃し、統一して「テーマセッション」として開催しております。

IV 第 49 回（2022 年度）大会の託児サービスについて

日本犯罪社会学会では、子育て世代の会員の皆様の研究活動のさらなる活性化をはかることを目的として「大会時における託児サービスの導入」について研究委員会を中心に検討を重ねてきました。その結果、第 49 回大会（龍谷大学、2022 年 10 月 15～16 日）において託児サービスを試行的に導入することが、2022 年 4 月の常任理事会で決定されました。

今回の託児サービス試行導入の概要は、下記の通りです。

委託業者

株式会社ラヴィ（本社：大阪市）

派遣されるシッター

女性 2 名

会員の費用負担

なし（学会が全額負担）

提供時間

総会を除く全日程（10 月 15 日は 10 時 30 分～17 時、16 日は 9 時 30 分～17 時 30 分の予定）

場所

大会校内の託児に適した部屋（詳細は仮申込をされた方に別途お知らせします）

対象年齢

（大会開催日時点で）満 1 歳～小学校 6 年生まで

その他

平熱より体温が高い場合、法定伝染病にかかっている場合、アナフィラキシーショックを過去に発症したことがある場合には、委託業者との契約上、託児サービスの提供ができかねます。あらかじめご了承ください。委託業者が加入している損害保険の詳細については、仮申込をされた方に別途お知らせします。

つきましては、第 49 回大会において託児サービスを利用する意向がある会員（大会における報告の有無は問いません）におかれましては、6 月 30 日までに下記フォームにより「仮申込」をお願いいたします。現時点で未定であっても、託児サービスを利用する可能性が少しでもある場合には「仮申込」をお願いいたします。

「日本犯罪社会学会第 49 回大会における託児サービス」仮申込フォーム

<https://forms.gle/t2xETMPQikezEAT58>



なお、このたびの「仮申込」フォームに入力された情報が委託業者に提供されることはありません。今後の「正式申込」の手続き等については、研究委員会より 8 月 10 日までにメールで連絡いたします。

「仮申込」が多数となった場合、ご希望に添えない場合があります（年齢の低いお子様を優先させていただく場合があります）。また、第 49 回大会がオンライン開催に変更になった場合には、託児サービスの試行導入を中止します。これらの場合においても、研究委員会より 8 月 10 日までにメールで連絡いたします。

今回の託児サービスの提供は試行です。2023 年以降については、今回の試行をふまえて検討して参ります。

本件に関するお問い合わせについても、上記の仮申込フォームからお願いいたします。

V 2022 年度院生会員会費の取り扱いについて

日本犯罪社会学会 2022 年度院生会員会費免除のお知らせ

日本犯罪社会学会会則において、院生会員（大学院に在籍し、かつ常勤の職を有しない者）の会費は、当該会員の申請により、理事会の定めるところによると定められています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、大学院生が経済状態の悪化によって研究継続が困難になる可能性を考慮し、日本犯罪社会学会第 17 期理事会は院生会員に対し、**2022 年度**の学会費を免除することを決定しました。

該当する会員で、免除の適用を申請される方は、以下の URL にアクセスし、フォームからご連絡をくださるようお願いいたします。

申請フォーム URL : <https://forms.gle/WJCvwEB9uhqrfizV7>

（学会 HP に上記 URL のリンクがあります。そこからのアクセスが便利です）

2022 年度院生会員会費免除申請期限：**2022 年 9 月 24 日（土）**

当該年度学会費未納の方には機関誌の発送をいたしません。今秋の機関誌発送業務のために、免除であるのか未納であるのかを判別する必要があります。この点に鑑みまして、免除を希望される会員は期日までに申請してください。

学会事務局では、当該年度において院生会員に該当するかどうかを確認することができません。そのため、ご連絡がなければ、未納であるか免除対象であるかを判別することができません。翌年度以降の会費請求で二重請求してしまうこととなります。

VI 第2回講座「犯罪学」開催報告

第2回講座「犯罪学」を下記のとおり実施しました。

上段：科目 下段：講師（敬称略）

	10:00-11:20	12:30-13:50	14:00-15:20	15:30-16:50
2 / 5	01 イントロダクション	02 犯罪対応の制度	03 犯罪学の研究方法	04 犯罪学理論への導入
	浜井浩一	本庄武	岡邊健	上田光明
2 / 1 2	05 コミュニティと犯罪	06 環境犯罪学	07 離脱・ライフコース理論	08 コントロール理論
	原田豊	松川杏寧	津富宏	浜井浩一
2 / 1 9	09 緊張理論・アノミー理論	10 文化・サブカル・学習理論	11 ラベリング理論	12 犯罪とメディア
	野田陽子	齊藤知範	山本功	大庭絵里
2 / 2 6	13 少年法	14 刑事司法と福祉	15 ダイバージョン	
	武内謙治	水藤昌彦	赤池一将	

講義はすべてオンライン（Zoom を用いたリアルタイム配信）で実施しました。加えて、全講義を録画したうえで、その録画映像を参加者および講師に向けて期間限定で配信しました。

参加者は51名（一般41名、学生10名）でした。SNSでの宣伝に注力したところ、SNSをきっかけとする申込者が36名となり、申込を開始してから1か月ほどで定員に達しました。なお、講義をリアルタイムで視聴していた参加者は、各回平均25名前後で、半数ほどはオンデマンド型の参加となりました。

全講義終了後に「受講者アンケート」を実施したところ、回答者からは講師の先生方に対する感謝の言葉をはじめ、好意的な回答を得ました。犯罪学への学びを深められたとの意見が多く、次回開催を望む声もありました。

もっとも、アンケートの回収率は決して高くなく（回答者：14/51名）、オンライン形式での開催時のアンケートの実施方法について反省点として委員会で検討していきます。

なお、第3回講座「犯罪学」は2023年度を予定しています。

VII 各部・委員会報告

1 研究委員会

(1) 前号ニューズレターにて、第49回大会におけるテーマセッションの企画を公募致しましたところ、5件のご応募をいただきました。来年度大会以降も、企画の公募を実施する予定です。会員の皆様からのご応募をお待ちしております。

(2) 第49回大会は、インパーソンでの開催を予定しています。ただし新型コロナウイルス感染症の状況によっては、一部または全部をオンラインに切り替える可能性があります。プログラムは、9月に発行の予定です。また、大会に関する今後の情報は、学会ホームページでお知らせいたします。

(3) 第 49 回大会では、託児サービスを試行実施します。本ニューズレター「IV」をご覧ください。

2 編集委員会

現在、『犯罪社会学研究』47号発行に向けた準備を進めております。

また、『犯罪社会学研究』48号の自由論文・研究ノートの投稿締切は、2023年3月31日消印有効です。HP および犯罪社会学研究に記載されている投稿規程に従って、下記住所宛にご送付ください。なお、投稿締切に関して、特別な事情のある方は、必ず事前に編集委員会までご相談下さい。

また、投稿は常時受け付けております。会員の皆様のご投稿をお待ちしております。本誌が犯罪社会学の自由な学術フォーラムとなることを期待しています。

<自由論文・研究ノートの投稿先>

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10 八ッ橋ビル 7階 現代人文社気付

日本犯罪社会学会編集委員会

*投稿にあたっては、投稿時に日本犯罪社会学会の会員である必要があります。投稿者は（共著論文の場合は全員について）、遅くとも投稿締切日までに学会事務局に入会申込書を送達していなければなりません（同日必着）。この要件を満たさない場合は、論文を受理いたしません。現在非会員で、今後投稿を予定されている方はご注意ください。

*編集委員会では、自由投稿論文の英文校閲を行っておりません。そのため、自由投稿論文の英文要旨については、投稿時点で筆者の責任においてしかるべき方法で英文校閲をおこなっていることを投稿の要件といたします。なお、査読過程で英文要旨の修正を求めることがありますので、あらかじめご了承ください。

*海外から投稿する場合は、必ず事前に編集委員会までご相談下さい。

*研究ノートでの審査をご希望の場合は、論文の表紙か別紙に明記していただくか、編集委員会に事前にご連絡ください。

学会誌編集業務に関するご意見・ご質問につきましては、下記までお寄せください。

<編集委員会事務局>

hanshaedit17@gmail.com

3 渉外広報委員会

・研究会助成について

渉外広報委員会では、犯罪社会学に関する研究会に対し、助成を行っております。年度ごとに2件、1件あたりの助成金は40,000円です。詳しくは学会ホームページをご参照の上、奮ってご応募ください。

4 本部事務局会計部

会費納入のお願い

2022年度の会費納入のお願いを発送いたしました。郵便振込にて会費を納入されるようお願い申し上げます。過年度未納分のある方は、古い年度分から充当させていただきます。金額、口座番号および口座名は下記の通りです。

また、領収書をご希望の方は払込票の通信欄にその旨を記入して下さい。

通常会員 8,000 円

院生会員 6,000 円 (大学院に在籍し、かつ常勤の職を有しない会員)

※院生会員の 2022 年度会費は免除を決定いたしました。本ニュース 136 号「V 日本犯罪社会学会 2022 年度院生会員会費免除のお知らせ」をご覧のうえ、該当される方は免除を申請ください。申請がなされることが免除の条件となります。

国外会員 7,000 円 (国外に在住し、かつ国内に連絡先を有しない会員)

郵便振替口座 00950-2-148284

加入者名 日本犯罪社会学会

会費を 3 年未納となりますと年度末で退会扱いとなります。滞納されていて会員の資格についてご確認なされたい方、また退会をお考えの方は、その旨を事務局まで御一報下さい。

なお、銀行振込や小切手での会費の支払いは受け付けておりませんのでご注意ください。

5 本部事務局庶務部

(1) 献本 (2021 年 12 月 21 日～2022 年 4 月 18 日)

下記の通り献本がありました。ご報告少々、お礼申し上げます。

- ・法務総合研究所『令和 3 年版犯罪白書—詐欺事犯者の実態と処遇—』
 - ・龍谷大学矯正・保護課程委員会編『矯正講座』第 41 号
 - ・龍谷大学矯正・保護総合センター編『龍谷大学矯正・保護総合センター研究年報』No.11
 - ・赤羽由起夫『少年犯罪報道と心理主義化の社会学—子どもの「心」を問題化する社会』晃洋書房
 - ・上田光明『犯罪学におけるコントロールモデルの展開と犯罪原因論の課題』日本評論社
- ・・・・・・・・・・・・・・・・以上 5 冊

(2) 会員数(2022 年 4 月 18 日現在)

一般会員 420 名、名誉会員 10 名、終身会員 2 名、特別会員 2 団体、合計 434 名

※個人情報保護のため、ニューズレターの記載は人数のみとします。会員各位には、年間 1 回、会員動向の詳細版を郵送いたします。

お願い

転勤等で所属や連絡先を変更された場合は、学会事務局まで速やかにご連絡下さい。事務局では、会員の皆様からのご意見、ご要望、インフォメーションなど随時承っております。

日本犯罪社会学会 事務局

〒577-0036 東大阪市御厨栄町3-1-35 学術センター U-Box 2F

TEL : 06-6618-4324 (月～金 10 : 00 - 6 : 00)

E-mail : hansha@daishodai.ac.jp

*お問い合わせ・ご連絡は、なるべくメールでお願いいたします。
